

KSKP Threshold

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.8

～すれっしょんど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュホールドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です



みんな歩いてきた道

ようやく恐ろしいほどの暑さの夏も終わりです。さて、今回は「スレッシュホールド」という聞き慣れない言葉について聞かれることがあったので、お伝えしたいと思います。私がこの言葉を知ったのは、2014年の夏、アリゾナ州ツーソンにある、治療共同体施設 AMITY CTR で研修をした時です。初めてアミティに来た人が最初に過ごすロッジの名前なのです。つまり、アミティでのプログラムを受ける人は皆そのロッジでの生活を通して、その後の回復へのプログラムにチャレンジしていくのです。なぜ、その名前をこのニュースレターのタイトルにしたのか？というと、私が薬物を最後に使ったのは今から11年ほど前になります。周りの方には「薬物を使っていたなんて見えませんね」と言われるのですが、私はどちらかというと重症な方でした。私も含めて各地でダルクを運営している施設長全員が、今日苦しんでいる人と全く同じ時期があり、その出発点を歩いた経験があります。ダルクにつながった時の気持ちを誰もが覚えていていると思います。だから、回復できると信じれるということ。そんな思いがこのニュースレターのタイトルになったのです。神に感謝。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ
 自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー
 〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通1-1-20 長坂ハイツ 2F
 TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

アディクトとの出会いから神戸ダルクとの出会いまで

姫路少年刑務所処遇カウンセラー、大阪心理教育センター専門カウンセラー

谷家 優子さん

私がアディクトとはじめて出会ったのは、校舎の片隅や校舎裏でシンナーを吸う同級生の前を通り過ぎていた中学の時です。それから 20 年後、当時、仲間と共に性と人間関係の相談機関を神戸市内に設立(後に西宮市内に移転)、面接と電話による相談業務に携わっていました。西宮市の教育委員会をはじめ行政関係部署の担当者と相談機関のメンバーで性暴力へ対応するネットワークを立ち上げ、定期的に協議をしていた頃には、ドラッグを使用する 10 代の人もしくは保護者からの相談が相次ぎました。当時は知識も経験もなく、四苦八苦したものです。それから数年して、縁に恵まれ兵庫県内の官民協働の刑務所に民間側専門職として設立当初から勤務することになった私は、その僅かな経験が上司の目に留まり、薬物依存離脱指導の責任者を言い渡されてしまいました。大阪ダルクに週 1 回通い、レクチャーを受けさせていただきながら教材を作成しました。そして実際に開講してからは、受講者である海千山千のおっちゃん達に、「何も知らないから教えて」と本気で泣きついて、「ポンプ? 何それ?」「そんなんも知らんのんかいな」なんてやりながら、彼らの懇切丁寧な教えによって、私はアディクションの世界に本格的に足を踏み入れました。

その日から私は、様々な面で驚きの連続の 11 年を過ごしています。最初、よく気が付き心優しい彼らに驚いたのも束の間、すぐにその意味を知ることになるのです。彼らは、酷い暴力を受けた体験から、他者の顔色をうかがって、常に敵か味方かを探りながら、味方と判断した人には心を尽くすという対人関係を持っていました。あまりに壮絶な体験を語る人を前にして、私の方が言葉を失ってしまうこともしばしばありました。その頃に、ドラッグは心の痛みの特効薬になっているのではないかと疑いを持つようになりました。シンナーを吸う同級生、相談を受けた 10 代の人たちの顔が浮かんで来て、疑いが確信に変わりつつある頃、「自己治療仮説」※を知りました。同時に、ドラッグという特効薬を失った彼らはどうなってしまうのだろうという新たな疑問が浮上してきました。

この疑問を、いつだったか梅田さんにぶつけたことがあります。暴力被害とドラッグには深い関連がありながらも、直面することさえも難しいテーマなのだと梅田さんはおっしゃっていました。私の疑問の答えは、回復している人が示してくれてはいますが、先行研究が乏しい状況で、この先は自分で研究しないといけないと悟り、研究の道に進み現在に至っています。

研究に専念しようと、矯正の世界から足を洗ったものの、回転ドアのごとく数か月後に舞い戻りました。私がシャバにいる僅かな期間に、梅田さん夫妻が神戸にダルクを設立されました。ご子息の双子ちゃんの成長と共に神戸ダルクが育っている姿をそばで見ることができると新たな驚きと感動を感じている私です。

※カンツィアン,EJ&アルバニーズ,MJ「人はなぜ依存症になるのか」松本俊彦訳(2013)

～依存症セミナーin 明石～に参加して

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ スタッフ 梅田容子

7月14日にパピオスあかしにて明石市の後援で依存症セミナーを開くことができました。講演内容などは少し変わっていますが、神戸ダルクとして兵庫県で三度目となるセミナーでした。第一回と第二回は神戸市で行いましたので、ダルクが市内にあることも手伝ってか、たくさんの方々がご参加下さいました。明石には現在、NA(薬物依存症者のための自助グループ)は一会場しかミーティング場が開けられていませんし、もちろんダルクなどの依存症回復施設ありませんので、正直、セミナーを開催してそこまで人が集まるのだろうか？成功(この言い回しが正しいのかは分かりませんが)するのだろうか？といった不安の方が強かったです。しかし、実際は会場の準備段階で用意していた座席は早い時点で全て埋まり、追加の座席を用意するほどにたくさんの方がご参加下さいました。そしてそのほとんどが当事者ではなく、各支援機関や公的機関などの支援する側の立場の方々でした。これには本当に驚きましたし、それだけ多くの方に感心を持ってもらえていることが今後の活動の励みとなりました。

このセミナーに参加して、一番に感じたことは、依存症は病気なのだという認識が少しずつ世間にも浸透してきているのかな、ということでした。とはいえ風邪のように熱が出るわけでもなく、癌のような痛々しさもない、本人しかわかり得ない辛さ。そんな病を周りの人たちはどう理解すればいいのか？なぜ依存症になるのか？わたしたちに何ができるのか？そんな思いで参加して下さった方が多かったのではないのでしょうか。

私自身も依存症当事者ですが、自分が病院で依存症と診断されてもそれがなんなのか、理解するまで時間がかかりましたし、何度も再使用をしてしまう自分のことを責めました。そうやって悪循環の呪縛から逃れ回復のレールに乗るのに2年かかりました。幸い、自分の場合は早い段階で専門の医療機関や自助グループにたどり着けたので、自分で自分を責めることはしたものの、周りから「何で止められないんだ！」とか「家族や友達に悪いと思わないのか！」といったもののしりは受けなかったもので、それが救いでした。両親はおりませんので、その他の家族とは離れており、わたしを支えてくれたのは依存症の専門医と自助グループの仲間たちでした。どれだけ失敗しても笑ってくれ、迎え入れてくれ、また一から始めようよと声をかけてわたしが変わるのを待ち続けてくれました。そうやって依存症の正しい知識を持っている人たちの中にいたからわたしは今、こうやって回復の道を歩き続けていられるんだと思います。

このセミナーの中で使った資料にもあった通り、同じように薬物を使っても依存症になる人とならない人がいます。どういった違いがあるのか？使う必要がなくなれば使わなくなります。今の自分にどれだけ満足しているか。幸せだと感じれるか。薬物以外のものに満たされているか。それらは全て自分の内側から出てくるものです。

ダルクでは日々、主に依存症になってしまった方やその家族の相談、支援を行っています。こういったセミナーを開催することでたくさんの方が依存症に対する正しい知識を持ち、それが予防啓発に繋がると思っています。また他の地域でもこのような機会が設けられることを期待して、日々活動していきます。今後ともよろしくお願いいたします。



一年を迎えて ヒコ

一年を迎えて、あ〜っやっ一年だ、長くも短くも感じた、最初の一ヶ月はすごく長く感じた、ダルクに来たけど大丈夫かなあ、やっていけるのかなあとおもってた、やっとなかえた一ヶ月の時は感極まって涙が出てきた、いろいろな感情が溢れてきたんだと思います

一ヶ月経った後も何かを理由にしてダルクを出ていきたいと思っていた、慣れない団体生活、この団体生活に慣れるまでは時間がかかったと思う、やっぱり人間関係は難しい。今まで自分の思い通りに好き勝手に生きてきたのだから当然だと思うけど一日中ず〜っと同じ顔を突き合わせていると嫌なところが目立つようになってきた。でもそれでも二か月三ヶ月と経つと気にならなくなってきた。一緒に生活している同じ目的を持っている仲間は、気の合う仲間になって来たし何と言っても笑いの有る楽しい毎日だ。人間関係の問題はなくなりましたが、毎日のデイと寮のいきかえりの自転車が辛かった。神戸の街はとにかく坂が多いデイに行くときは下り坂だからペダルをこがなくても楽に行けるけど、寮に帰る時は上り坂、これが急な坂がありとてもつらかった自転車で上がり坂の半分くらい上がった所で足はつるし息があがるし、心臓がバクバク、上がりきったらもう嫌、自転車なんて大嫌い、こんな毎日が続いたらダルクを出てやるとも思っていました。その自転車問題も電動自転車が手に入り解決した。するとダルクでの生活が毎日楽しくて、やがては出ていく日が来ることをすごく残念に思えるようになりました、今まで必死に働いてきて体をいたわる暇もなく身体はボロボロになっていた。今休息をとっている。なにもしないので退屈だと言う人もいるけど自分は今、丁度いい休息をとっている感じだ。今は一ヶ月の時とは反対に出ていきたくない。今の仲間と別れたくないと思うほどです。

一年が経ちました よっちゃん

薬物依存症のよっちゃんです。まだまだ残暑ですが少し秋の気配を感じながら施設生活を送っています。今年の夏も本当に暑かったですが施設の仲間達は助け合いながら、時にはクーラーの力を存分に借りながら残暑を乗り越えようとしています。

僕は約1年前、施設に繋がりました。繋がる以前の僕は薬物使用を繰り返しながら、「僕の人生はどうなるんだろう?」「こんなはずじゃなかった。」そんな後悔と情けない気持ちそれと人生半分以上諦めて生活していた事が今は懐かしく思えます。それぐらいこの施設で回復させて頂いてるのは紛れもない事実です。施設ではMT、野外活動、掃除、エンカウンターG等、色々なプログラムをスタッフは組んでくれています。楽しいプログラム。えっ……(-_-)なプログラムありますが…(笑) 僕が1年間で気付けたのは何よりも回復したいという同じ気持ちを持つ仲間と同じ時間を過ごす事。これが一番薬物から遠のく方法だと確信しています。仲間の中にいると勿論色々な事があります。その中での自分の内側の感情の発見が本当に沢山あり良い発見があれば、僕はこんな人間なのかと思う余り宜しく無い発見……(+_-)様々ですが、自分の感情の発見が新しい生き方への第1歩だと思っています。

1年は経ちましたが僕の人生はまだまだ先があります。薬物使用中は後悔と諦めばかりでしたが今は違います。希望に満ち溢れている人生になりつつあります。とはいえ薬物依存症とはしっかり向き合いながらの人生。これだけは忘れてはいけない事です。今日だけ薬物を使わない人生を心掛け自分の人生と向き合いながらこれからも仲間と共に歩みます。このような機会を頂き本当に有難うございました。

一年のバースデーを迎えました タケ

僕はこの施設にきて来てあと5か月で2年になります。でも残念ながら両親は家に僕を受け入れてくれません。でも僕はダルクを出ようと思っています。今は仲間のサポートのお陰で少しずつ回復できていることを実感しています。僕と一緒に歩いてくれた施設長に本当に感謝しています。もしダルクに繋がっていなかったら、僕は恐らく4度目の懲役に行っていたと思います。そうなっていただろうお父さんお母さんを本当に悲しませてしまっていたと思います。幸い神戸ダルクが実家の近くにあつて、僕は本当に恵まれていたと思います。

刑務所に行くのはもうごめんです。

これから社会復帰し、残りの人生をまじめに生きたいと思っています。そしてお父さんお母さんに親孝行してあげたいです。



神戸ダルクにつながり1年を迎えました。

チャン

アディクトのチャンです。私は今年で37歳になるのですが、シンナーが止められずに、自分の身も心もボロボロにして家族、良き友人、時間、信用、すべて失いました。残ったものは後悔と悪友、そして気づけば、独りぼっち。過去7回の受刑生活で大切な仲間を失ってきました。神戸ダルクに繋がったのは、もうこれ以上どうにもならなかったと言うよりも、何度も底をついて、このままでは一生刑務所暮らしになるか、精神病院。そして死ぬかぐらいの状況だったと思います。私は初めて勇気を出して神戸ダルクに入りました。初めは「何これ？めっちゃダルい！」と思っていましたが、新しい仲間、新しい環境で多くの事に気づかされました。自分がどれだけ自惚れていたか、どれだけ自分の世界で苦しんできたか、私は今、少しずつ回復にむけて今日一日を続けていますが、正直、薬を使いたいと思うことは少なからずあります。でもダルクに繋がって、先ゆく仲間のおかげで薬を使いたい時に仲間の顔や自分の底つきの辛さを思い出し、それが逆に抑止力に繋がっています。私は今、神戸ダルクのプログラムを受けシラフの楽しさ、本来、自分の求めていた小さな幸せを感じることが出来ています。私は薬に対する自分の弱さ、これは病気なんだと認めるまで時間はかかりましたが、逆に認めてしまうと、いかに自分が最悪な場所で生きてきたのか、クリーンを続けることにより気づくことが出来ました。私はダルクのプログラムを通して社会復帰の為に必要なことを学んでいます。正直、今は自信がありません…。でも自分の中でダルクや自助グループ等の自分の居場所の一つではないと思えば不安はあまりありません。社会復帰のことを思えばダルクは一つの通過点に過ぎないけど、今日一日を大切に生きています。

初めまして僕は35歳のアルコール依存症です。

コウ

病院で依存症と診断されたのは、32歳の時です。その頃はまだ飲食店で働いていました。始まりは働いていたお店で、倒れてしまい救急車で運ばれました。診断は食道静脈瘤と肝炎と言われました。そこから僕の人生設計が崩れて行きました。救急車で運ばれてその日から3週間入院する事になりました。その一ヶ月後に結婚式を控えていました。お酒は毎日飲んでいたのでその時の奥さんとは結婚式までは禁酒をしようと約束しました。その約束は守って結婚式の当日に解禁して飲みました。一ヶ月ぶりのお酒は美酒でした。それからとゆうもの毎日飲んでいました。その頃奥さんのお腹の中には子供を授かって、いました。予定日は2週間後でした。その時は体調も万全で仕事も上手いっていました。子供が生まれ僕も一緒に子育てをしていましたが、仕事場に向かっていく時に今度は血を吐きまして、その時は自分で病院に行き、胃カメラとエコーを撮りました。診断は食道静脈瘤破裂とアルコール肝硬変と言われ、また入院する事になりました。今度は一ヶ月半でした。その時は凄く不安でした。家族の事、仕事の事いろんな事が不安でした。病院治療を受けて、治り退院したのですが、病院の診断書には一ヶ月自宅療養と言われ、なくなり会社に報告しました。会社の専務の人はゆっくり自宅で休みなさいと、言ってくれたのですが毎日することもなく子守をしながらお酒を、飲むようになりました。それが、酷くなり朝から、飲むようになりました。そこから連続飲酒にはまりました。奥さんに何かと理由を言って、お金を貰いお酒に変えて、いました。それが段々通用しなくなってきたら、奥さんの財布から、お金を盗む様に、なりました。奥さんがそれに気付くと財布を隠すようになり、何処を探しても、見つかりませんでした。諦めて、次に考えたのは知り合いに嘘を言ってお金を借りるようになりました。そんな事をしているうちにまた吐血してしまい夜中に救急車で運ばれ入院する事に、それが何回も続き2年間で入院を16回しました。それに呆れた奥さんがある日、僕が1万貸して、と言った時に(私たちを取るか、お酒を取るか選んで)と言われ僕は、軽い気持ちで(酒を取る)と言ってしまいました。その翌日に離婚届を出されました。僕には、両親がいなくてすぐにその家を出ることができませんでした。家を借りていたのは、奥さんだからです。奥さんをお願いして、次の家が見つかるまでおいてもらう事になりました。それでも、お酒がやめれずいろんな知人に嘘をついてお金を借りて、お酒に変えていました。ようやく次の新居が決まり久しぶりの一人暮らしをしたのですが、そこでもお酒がやめれず、今度は生活保護のお金でお酒を飲むようになりました。そして、ついにまた吐血をして救急車で運ばれ、今度は肝不全の末期だと言われました。食道静脈瘤も大分酷く手の施しようがないといわれ、次に吐血したら血が止まらないと言われました。そこで、病院の先生に謀精神病院を紹介され渋々その病院に入院する事になりました。期間は3ヶ月でした。そこで、本当にお酒をやめようと決心したのですが、悪い仲間とつるむようになり、入院しながらお酒を飲んでいました。

3ヶ月たち、退院したその日に、自分の家には帰らずその仲間の家に居座る様になり、その人に全部養って頂きました。お酒代、交通費、服代、旅行代様々なお金をだして貰っていました。その生活にも嫌気がさしてその人とも別れ、自分の家に帰りました。帰ってから別れた人から当分生活できるくらいのお金を貰っていたので、お酒を飲んだり、女の子と遊んでいました。お金も底をつきどうにもならなくなり、もう自分は生きてい

でも仕方ないと思い自傷行為を行いました。朝方家の近くの路上で、出刃包丁を片手に倒れていました。通りがかりの人が発見してくれて救急車を呼んでくれて、病院に運ばれた時には心肺停止状態だったそうです。蘇生、挿管をしてもらい何とか命は助かりました。

2週間ICUにいてその後一般病棟に移り2ヶ月で退院しました。その後は、謀精神病院に2回ほど入院しましたが、2回とも上手く行かず、強制退院になりました。最後の病院でとんでもない事をしてしまいました。その病院は入院してから、1ヶ月間外出ができないのに、病院で知り合いになった悪い仲間と脱走してしまいました。脱走した二日後に警察に逮捕されました。その内容は詳しくはお伝えできませんが...

警察署の留置所の20日拘留されてしまいました。その後不起訴で、釈放されたのですがその人また行動をとりにしました。僕には行く場所がなく困っていたら、その人が当分の間面倒みてやるといわれ、このご関東のほうまで行ったのですが、1週間で関西に戻ってきました。関東の生活は僕には耐えられませんでした。その後関西に戻ってきてお金は多少残っていたのですがお酒が飲みたいが為に、安い宿にもとまらず、公園で寝泊りしていましたが、公園も暑く体力も限界まできていたので、ビジネスホテルに行くことにしました。初めは4日だけ泊まろうと思い、チェックインをして泊まったのですが、お風呂にも入らずひたすらお酒を飲んでいました。4日目すぎ僕はあんまり記憶がなかったのですがフロントに電話をして、(もう一泊させて下さい)と言ったらしくホテルの方は疑う事もなく(後日の支払いでいいですよ)と言って下さいました。その時の所持金は500円くらいでした。支払い能力も無かったのですが、その時は、お酒で思考能力が無かった為にそうゆう発言をしてしまいました。その翌日ホテルを抜け出し、タクシーで警察署に自首しました。今思えばその当初お金もなく住む所もない僕は、警察に行くしかなかったのです。その日から拘留され取調べの毎日でした。その時から、僕は感染脳症(かんせんのうしょう)におかされたのです。凄く怖い事で、ほっておくと死に至る事もあるそうで、アルコールを多量に摂取し、肝臓が処理しきれなくなったら脳にアンモニアが上がって脳が意識障害をおこします。昼夜逆転したり、急に暴れだしたり叫び声あげたりしてしまうようです。それが、1週間くらい続きます。自分でも記憶があるのですが、急に留置所の中で怖い人が来たり、船の中でご飯を食べたり人が殺されたりします。本当に怖かったです。だから取調べでは、全然何を話したか覚えていません。そして、起訴が決まったのですが留置所には1ヶ月半もいました。その後拘留所に移送され、裁判が始まりました。裁判自体は2回で終わり執行猶予の判決で出てきました。その日に神戸ダルクの代表に迎えにきて頂きその日から神戸ダルクに入寮しました。捕まってから、色んな事を考えさせられました。たった一人の肉親の姉の事、息子の事今まで助けてくれた知人それと一番大事なことは自分の体の事でした。このまま酒を飲み続けたら、1年と持たないと思いそれで神戸ダルクへの入寮を決意しました。それでもまだ病氣(精神的)は治りません。入寮してから、1ヶ月でダルクを抜け出してしまいお酒を飲んでしまいました。抜け出した理由は自分自身の問題で対人関係、ダルクの不満でした。不満は共同生活していたら当たり前にある事で、自分の中では単なるお酒を飲む為の理由付けにしかなかった事に気づかされました。これでは今ではしてきたことの繰り返しで、入院中も何か自分の氣にいらないうことがあれば抜け出しお酒を飲んでいました。それではダメだと今は実感しています。今僕がしたいといけないう事は、しっかり回復して胸をはって息子に会いたいと思っています。

京都ダルク合同海水浴 in 若狭 ゲン

今年の夏、神戸ダルクで1泊2日の海水浴を福井県で行いました。現地で京都ダルクの人々と待ち合わせ合流しました。私はアディクトのゲンと言います、まだ通所2ヵ月ぐらいです。私は8年スリッパしていませんが、少し前まで精神的なことで困っていましたが、今は問題なく過ごせるようになりました。現地では、みんな楽しく過ごせて有意義な時間を持てたことをうれしく思います。私は海水浴に行くのは16年ぶりで、仲間との時間を新鮮に思いました。このような社会学習を体験する中で精神の安定を維持できるのではとったりしています。また色々な体験をして依存症の効用となればなと思います。このような機会があればぜひ参加したいと思います。



活動報告

2018年7月22日～
名古屋ダルクメッセージ

2018年8月
布引の滝 BBQ&滝壺ダイビング
アディクションフォーラム滋賀参加
明石海水浴
甲子園球場 高校野球観戦
読売新聞取材
松山刑務所メッセージ
小野市更生保護女性会見学
治療共同体研究会参加
六甲山牧場ピクニック
ひょうごアディクションフォーラム実行委員会開催
人と防災未来センター見学
WCNA37 参加

2018年9月(19日まで)
姫路城見学
カップヌードルファクトリー見学
京都エンカウンターG ワークショップ
リカバリーパレード京都参加
学生ボランティア見学
市民救命士 AED 講習会
エイサー練習会(神戸和太鼓センター)
エイサー合宿(神戸自然の家)

アゲインファーム ボランティア 月2回
垂水病院メッセージ 毎月第3火曜日
垂水病院スマーブ 毎週金曜日
神戸保護観察所スマーブ講師 毎月2回
神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日
明石保健所家族相談 毎月1回



近況報告・活動予定

神戸ダルク第1夜間寮を閉鎖し、8名定員の第3夜間寮を開設しました。灘の山の上にあり、神戸の夜景が見下ろせる空間です。開設までに数人でリノベーションの作業をしました。今年の正月はみんなでここで美味しいものが食べられるでしょう。楽しみです。また、エイサー(琉球太鼓)の練習も始まりました。様々な助成団体様のおかげで始めることができました。神戸まつりで披露できればと考えています。少しデイセンターも狭くなり、次の場所が見つかるまで、隣の部屋を借りようと計画しています。相談が非常に多いこの頃。多くの方の心が救われればと願います。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッショルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。

個人会員は1口 3000円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。刑務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談 相談の内容についての秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる連絡者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

畠田安世様 小林正英様 大阪Ⅱソントクラブ様 小野市保護区保護司会様 小野市更生保護女性会様
中田智恵海様 平野茂様 琴浦圭子様

ご献品

大西昇様 小野市保護区保護司会様 小野市更生保護女性会様 KIM 法律事務所様 フードバンク様
畠田安世様

(平成30年7月11日～平成30年9月6日到着分・順不同 ※購読料の方を含む)

献金・献品をお願いいたします。

いつもご支援いただき誠に有難うございます。毎回のお願いで本当に心苦しく思いますが、運営維持のためのご寄付及び、ご家庭で余っている日用品の献品をお願いいたします。

薬物依存症者への初期の支援は、様々な問題や、面会、面談、訪問、手続き、会議などで追われてしまいます。が、そのような支援、さらに刑務所入所者、逮捕者への支援は、すべてボランティアにて行われています。しかし、そのような支援が本当は一番大切であり、依存症者の回復のチャンスを絶やさないようにしたいと考えていますので、何卒ご支援のほどよろしくお願い致します。

また、ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から、洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。グローブなどもございましたら是非送譲ってください。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

暑い夏も終わり、過ごしやすくなりました。しかし、仲間が書いてくれた原稿をもらってタイピングしながら、仲間と過ごした時間を思い出しています。本当に時はあっという間に過ぎていきます。家族との関係が全く取れなかった仲間が、今では月に一度、一緒にご飯を食べに行ったり、そんなことにホッとしながら、夕方吹く秋っぽい風に気持ち良さを感じて過ごしています。このニュースレターの感想を刑務所の中からたくさんいただきます。非常に嬉しく思います。仲間の記事が、誰かの役に立っていることを思いながら、感謝を込めて編集させていただいています。

神戸ダルク ニュースレター Threshold (出発点) Vol.8

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規

印刷 プリントバック

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部 100円 年会費 2000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階